

コメント

1. 咽頭結膜熱

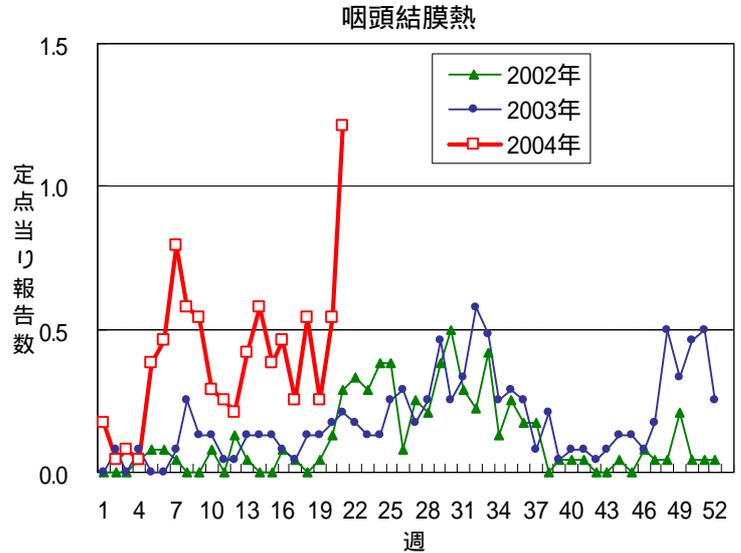
定点当り1.21人と急増しています。安芸区3.5人、安佐北区3.0人、中区2.0人と特に多く、東区1.3人、南区1.0人となっています。

2. 感染性胃腸炎

定点当り9.71人とやや増加しており、依然として例年同時期と比べ報告数が多くなっています。安芸区では22.5人と特に多く、中区、佐伯区ともに15.3人となっています。

3. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当り1.96人ほぼ横ばいとなっています。佐伯区では5.3人と特に多く、東区2.7人、中区、安佐北区ともに2.0人となっています。



5類感染症報告状況 (定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均 過去4年間 (注1)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均 過去4年間 (注1)	発生記号
インフルエンザ (注2)	12	0.32	0.04	↓	麻疹 (注3)	6	0.25	0.22	
咽頭結膜熱	29	1.21	0.20	↑	流行性耳下腺炎	4	0.17	1.10	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	47	1.96	1.23	→	RSウイルス感染症	-	-	/	
感染性胃腸炎	233	9.71	5.24	↗	急性出血性結膜炎	-	-	0.06	
水痘	34	1.42	2.27	↘	流行性角結膜炎	10	1.25	1.25	
手足口病	-	-	1.23		細菌性髄膜炎	-	-	0.07	
伝染性紅斑	10	0.42	0.56		無菌性髄膜炎	1	0.14	-	
突発性発疹	20	0.83	0.85		マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.40	
百日咳	-	-	0.03		クラミジア肺炎 (注4)	-	-	-	
風疹	-	-	0.03		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	16	0.67	0.43						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.15～2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

一時的な変動と考えられる場合は、前週との比較ではなく傾向を示しています。また報告数が少なく傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 37 (小児科定点含む)
小児科定点数 24
眼科定点数 8
性感染症定点数 9
基幹定点数 7

(注1) 過去4年間の同時期平均 (定点当り)
(注2) 高病原性鳥インフルエンザを除く
(注3) 成人麻疹を除く
(注4) オウム病を除く

1類～5類感染症報告状況 (全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	3	9	女性 (4歳)・O157、女性 (34歳)・O157 男性 (16歳)・O157
5	ウイルス性肝炎	1	3	男性 (28歳)・B型

5類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

報告数	報告地	週	インフルエンザ (注1)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻疹 (注2)	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (注3)	成人麻疹		
			72	6	36	280	49	1	3	17	-	1	5	-	9	-	-	8	-	-	1	-	-	-	-
70	13	53	295	44	3	7	13	-	-	5	-	8	-	-	7	-	1	1	2	-	-	-	-		
21	6	26	173	35	1	7	8	-	1	7	-	5	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-		
51	13	48	191	43	3	17	14	-	-	10	-	8	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
12	29	47	233	34	-	10	20	-	-	16	6	4	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-		
定点当り	広島市	第17週	1.95	0.25	1.50	11.67	2.04	0.04	0.13	0.71	-	0.04	0.21	-	0.38	-	-	1.00	-	-	0.14	-	-	-	
		第18週	1.89	0.54	2.21	12.29	1.83	0.13	0.29	0.54	-	-	0.21	-	0.33	-	-	0.88	0.14	0.14	0.29	-	-	-	
		第19週	0.57	0.25	1.08	7.21	1.46	0.04	0.29	0.33	-	0.04	0.29	-	0.21	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	
		第20週	1.38	0.54	2.00	7.96	1.79	0.13	0.71	0.58	-	-	0.42	-	0.33	-	-	0.13	-	-	-	-	-	-	-
		第21週	0.32	1.21	1.96	9.71	1.42	-	0.42	0.83	-	-	0.67	0.25	0.17	-	-	1.25	-	0.14	0.14	-	-	-	-
全国	第19週	0.10	0.26	1.13	4.13	1.74	0.08	0.30	0.44	0.01	0.05	0.13	0.02	0.55	-	0.02	0.73	0.01	0.01	0.10	0.01	-	-		
	第20週	0.10	0.39	2.02	5.75	2.28	0.13	0.52	0.73	0.02	0.08	0.34	0.02	0.75	-	0.02	0.96	0.01	0.03	0.18	-	-	-		

(注1)高病原性鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻疹を除く (注3)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

新たな検査結果はありません。

【参考】ウイルス性の感染性胃腸炎に対する感染予防と消毒方法

最近、ノロウイルス(SRSV)などのウイルスによると考えられる感染性胃腸炎が多くなっています。ノロウイルスは人から人へ感染するだけでなく、食品を介しても感染します。また、少量のウイルスでも感染しますので、感染を予防するために、次のことに注意してください。

1 便や吐物を処理するときの注意

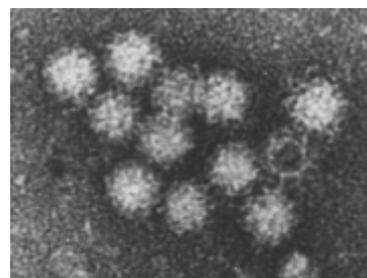
糞便、吐物には多量のウイルスが含まれていますので、取扱いには十分注意してください。

- (1) 便や吐物を処理する時は、マスクや手袋を着用してください。
- (2) 処理後の便や吐物は、ウイルスが飛散しないようにビニール袋等に密封し廃棄してください。
- (3) 便や吐物を処理した後の床などは、消毒してください。(汚染された床の上を雑巾やペーパータオルでおおい、消毒薬をかけて30分位放置してください。使った雑巾などは廃棄してください。)
- (4) 便や吐物で汚れた衣服や器具などは、ウイルスが飛散しないようにフタ付バケツ等に入れて持ち運び、消毒剤に浸け置きした後、よく洗濯・洗浄してください。

消毒は塩素系消毒剤(漂白剤)を希釈したものを使用してください。(床の消毒は50倍程度、衣服や器具の浸け置きは100倍程度に希釈したものを使用してください。アルコールや逆性石鹼はあまり効果がありません。)また、塩素系消毒剤の取扱には、商品に記載してある使用方法をよく確認の上十分注意してください。(金属部分を侵したり、他の洗剤と混ぜると危険な場合があります。また、換気を十分にしてください。)

2 人に対する注意

- (1) 下痢や嘔吐の症状がある場合は、できるだけ学校や仕事を休み、体力の回復に努めてください。
- (2) 手洗いやうがいを励行してください。(特にトイレの後や吐物を処理した後など)
- (3) 症状がある間は、食品の調理をできるだけ控えてください、やむをえず調理する場合は素手で食品を触らずに、手袋や箸を使用し、洗浄後乾燥させた調理器具を使用してください。



ノロウイルスの電子顕微鏡写真

本週報は、インターネットでもご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

なお、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

この情報の詳細に関するお問い合わせ先

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号

TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2004年第21週 (5月17日～5月23日)